

書店のための出版情報紙

Vol.10

# BookLink



『貴女。百合小説アンソロジー』(実業之日本社)

page  
2-3

実業之日本社『貴女。百合小説アンソロジー』  
織守きょうやさん・円居挽さんに聞く  
恋愛だけではない女性同士の関係を描く  
百合のイメージを刷新するアンソロジー

page  
4

日経BP 今井むつみさん初のビジネス書!  
『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか?』  
認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策

page  
5

『LGBTのコモン・センス  
—自分らしく生きられる世界へ』(第三文明社)  
『皮膚ガスのはなし  
—体臭は心と体のメッセージ—』(朝倉書店)

page  
6-7

経済産業省 書店振興プロジェクト  
第2回「車座ヒアリング」を開催、  
政府「骨太の方針」に書店活性化

page  
8

デジタルチラシ配信サービス「BookLink PRO」  
第2回「デジタル販促チラシコンテスト」  
7月開催

検索は  
「BookLink  
メディア」



『貴女。百合小説アンソロジー』(実業之日本社) / 織守きょうやさん・円居挽さんに聞く

著者が  
語る

# 恋愛だけではない 女性同士の関係を描く 百合のイメージを刷新するアンソロジー

青崎有吾、織守きょうや、木爾チレン、斜線堂有紀、武田綾乃、円居挽が執筆陣として名を連ねる『貴女。百合小説アンソロジー』が、6月27日に実業之日本社から発売される。前作『彼女。』に続く、百合小説の作品集第二弾だ。百合小説というと、一般的に性愛も含んだ女性同士の恋愛模様が描いた文芸というイメージが強い。しかし編集を担当した加藤翔さんは「『彼女。』を出したときに、百合小説ファンから厳しい意見ももらった。でも百合小説というのは、女性二人が出てくるフォーマットであればそれでいいし、それくらい自由でいいと思う」と話す。本作では恋愛感情だけではない、女性同士の特別な関係性・感情を描く。第一弾でも執筆している織守さん、円居さんにそれぞれの思いについて伺った。(聞き手: 山口高範)



織守きょうやさん(左)と円居挽さん

## 物語に頼ってはいけない

織守: これまでミステリやホラーを多く手掛けてきましたが、その場合、謎やストーリーという基本的な流れがあって、そこにキャラクターを当てはめていき、結果的に関係性が描かれるという手法でした。

ですから結果的に女性同士の強い愛情や恋愛感情を描くことはあっても、登場人物の関係性をメインに書くというのは、第一弾収録の「椿と悠」が初めてでし

た。作品を仕上げるにあたって、起承転結がはっきりしているミステリやホラーのように物語性に頼りたくなるけど、関係性をテーマにした小説なら、あまりそこに頼ってはいけないというか、頼らないほうが潔いんだろうなという自覚はありました。

ただ私の場合、これまで、謎やストーリーを重視した内容でも、同時に人間関係も描いた作品が多く、その点を好意的に評価してくれている読者も多かったため、依頼をいただいたときは、単純に楽しく、スムーズに書けそうだなと思いましたね。

円居: 第一弾の執筆依頼をいただく前に、実は女子高生が主人公のコミックのノベライズアンソロジーを手掛けていたので、お声がかかった理由もわかるんですが、それでも「自分じゃなくて、もっとふさわしい人がいるんじゃないか」と。百合小説というと、真面目に向き合っている作家さんが多いので、そこに私なんかが入っていいものかと思いましたね。

織守: でも私は円居さんや青崎さんがXで百合についてポストしたりしているのを見ていて、それぞれの作風は百合っぽくないけど、百合がお好きなんだろうなと。だからこのテーマであれば、お二人には声がかかるだろうとは思っていましたよ。

## 変化球な百合小説

円居: 自分が男性なので何をどう書いたとしても、この世に存在しないものを書いてしまいかねない怖さというか、いびつな欲望の結晶が生まれてしまう懸念もあったので、百合は極力避けてはいました。

貴女。百合小説アンソロジー  
四六判304ページ / 定価1980円(税込)

織守きょうや「いいよ。」扉絵 / むっしゅ



円居挽「雪の花」扉絵 / 高河ゆん



9784408538570

Interview

円居挽(まどい・ばん)

1983年奈良県生まれ。京都大学推理小説研究会出身。2009年『丸太町ルヴォワール』(講談社BOX)で単著デビュー。著書に「ルヴォワール」シリーズ、「シャーロック・ノート」シリーズ、「京都なぞとき四季報」シリーズ、「キングレオ」シリーズ、『翻る虚月館の告解 虚月館殺人事件』『感う鳴風荘の考察 鳴風荘殺人事件』などがある。



ですから前作も今作も、ストレートに百合と向き合っていない。個人的な印象ですが、ネットの百合文芸のメイン層は女性同士の性愛を描く方が多いと思っていたので、あえて女性同士の連帯というか、シスターフッドに寄せた変化球の百合小説にしようという意識がありました。

織守: 確かに第一弾のときもそうですが、この執筆陣ならみんな変化球で来るだろうな。思った通り、みなさん変化球で書いてきて。性癖が出ていますよね(笑)。

ですから私の場合は、あえて前作以上に王道に寄せて、さらに一歩踏み込んで、恋愛度を高めました。そうすると、純粋に女性同士の関係性に軸足のある作品にしなくてはいけない。関係性一本で勝負しなくては、と。ただそれで読者を楽ませることができるか、少し不安な部分もあったので、多少ミステリとしてのギミックを挿入しましたが、やはり百合小説として関係性を描く、物語として読み応えのある作品にする、その狭間の匙加減が難しかったですね。

円居: 織守さんの前作はストレートな女性同士の話でしたけど、割とミニマムでしたよね。今回はあれよりも長い作品ですが濃度はそのまま、つい最後まで読み進んでしまって、今まであまり感じたことのないような読後感でした。

織守: 円居さんの作品に出てくる二人の女性は、恋愛感情ではない、何とも説明のつかない感情を描いていますけど、読む人が読めば「この関係性って百合だよな」と思う人もいる。この作品を読んで、いろんな百合小説があってもいいと改めて思った。逆にこれくらいが丁度いいという人もいると思う。

円居: 作中に男性が登場するだけで、嫌悪感を示す百合ファンが少なからずいるのもよく知っているので、おそらく他の人はこういう書き方をしてこないだろうという考えもあって、意識的に男性を登場させ、ある重要な役割を担わせています。

ただ織守さんも言うように関係性だけで書こうとするのは私も怖くて、だからミステリとしてのギミックを盛り込んでしまったわけです。結果的に犯罪小説の要素が濃くなってしまい、今回の収録作では百合小説としての純度が一番低いかもしれないなと思っています。

百合のパブリックイメージを裏切る

織守: でもミステリやサスペンスとしても読めるので、百合好きではない人にとっても、読みやすい面白い作品ですよ。今回、円居さんだけでなく、皆さん前作よりもパワーアップしているように感じました。武田(綾乃)



織守きょうや(おりがみ・きょうや)

1980年ロンドン生まれ。2013年『霊感検定』でデビュー。15年『記憶屋』で第22回日本ホラー小説大賞読者賞を受賞。同作に始まる『記憶屋』シリーズは累計60万部を突破している。21年『花束は毒』が第5回未来屋小説大賞に選ばれる。他の作品に『黒野葉月は鳥籠で眠らない』『響野怪談』『花村遠野の恋と故意』『幻視者の曇り空』『学園の魔王様と村人Aの事件簿』『悲鳴だけ聞こえない』『彼女はそこに』『隣人を疑うなかれ』『キスに煙』など多数。

さんも前作はそれこそ関係性のみの作品で、その姿勢がまたかっこいいなと思いましたが、今回はもしかしたら、読み手のことも考えられて、サスペンスの要素も入れてきたのかな。殺伐感もまた百合小説らしくて、とにかく面白かった。斜線堂さんの作品も、前作と比べると明るくて、葛藤してはいるけど重すぎなくて好きな作品ですね。

円居: 青崎さんの作品は、「やられた」と思いましたね。存在しないであろう職業と設定で、どこで落ちるのかがわからない。それなりにミステリを読んでいるので「まあ、この辺りが落としどころだな」というのが解る方だと思いますが、この作品のように少しずらされると途端に見えなくなって緊張感が出ますね。あとこのシリーズ自体が百合小説と謳っているだけに、読者もパブリックイメージとしての百合小説を思い浮かべて読むだろうに、そこをあえて裏切るかのように変化球を投げつけていく、その大胆さはさすがだな、青崎さんらしいな。

織守: めちゃくちゃ青崎さんって感じですよ。今回初登場だった(木爾)チレンさんの作品も、今の時代の女の子とかアイドルのリアリティを感じる、いい百合でした。冒頭と終わり方の温度差もよくて。

書店、読者へのメッセージ

織守: 前作の『彼女。』を楽しんでいただけた方にとっても期待を裏切らない、期待を超えてくるアンソロジーになっていますので、ぜひ多くの読者の皆さんに届けてほしいですね。

円居: 今回は前作以上に書店で並んだときに目を引く表紙で、書店店頭にも並ぶのがとても楽しみ。もちろん内容にも自信がありますが、皆さんの目に留まり、手に取ってもらいやすい本だと思います。

“百合”って、  
こんなにも自由。

新時代の名手が魅せるさらなる高み。  
全編新作アンソロジー!

円居挽

武田綾乃

斜線堂有紀

木爾チレン

織守きょうや

青崎有吾

大反響の  
話題作!



百合小説アンソロジー

あなた。  
「貴女。」

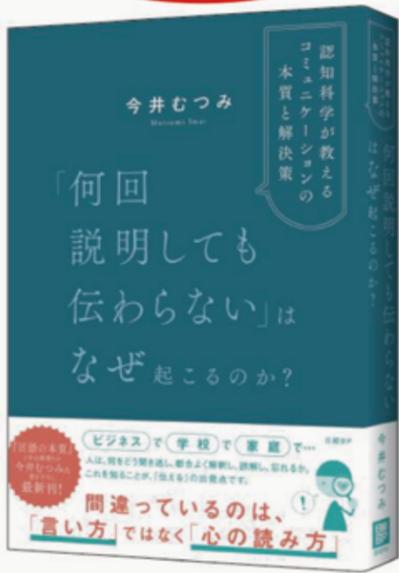
『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？  
認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』日経BP

話題書/ビジネス書/社会 ご担当者様



めっちゃめっちゃ売れてます！  
「何回説明しても伝わらない」は  
なぜ起こるのか？

「言語の本質」  
今井むつみさん  
初のビジネス書



【新聞広告】

- 5/16 日経朝刊 ⇒ 跳ねました
- 5/28 朝日朝刊 ⇒ 跳ねました
- 5/30 日経朝刊 ⇒ 跳ねました
- 6/10 日経朝刊 ⇒ 跳ねました
- 6/13 朝日朝刊
- 6/16 日経朝刊
- 6/20 日経朝刊
- 6/28 日経朝刊
- 7/4 日経朝刊

【交通広告】

6/24~30 JR東日本新Bドア横ポスター

著者・今井むつみさんがメディアに  
続々登場！

PIVOT  
NewsPicks+ d  
女性セブン 7/4号  
日経BOOKプラス 6/18、6/20  
リアルパートナー 7月号 などなど

この後もパブ・広告を予定しています。ご注文をお願いします！

番線	書名	注文数
	「何回説明しても伝わらない」は なぜ起こるのか？ ISBN : 978-4-296-00095-1 定価：本体1,700円+税	冊

日経BPマーケティング® ご注文は [ブックインタラクティブ \(http://bit.ly/bir\\_nkbp\)](http://bit.ly/bir_nkbp)  
または、FAX(048-421-3271) まで

Message



日経BOOKSユニット第1編集部  
宮本沙織

新書大賞2024  
『言語の本質』の  
今井むつみ先生  
初のビジネス書！

伝えたいことがうまく伝わらなかったという経験は、誰もが一度はあると思います。依頼した通りにできあがらなかった。厳守と伝えた締め切りが守られなかった。一生懸命説明しているのに、部下や子どもの理解度が上がらない……。

本書では、こんなときにまず見直すべきは「言い方」ではなく「心の読み方」と指摘します。天動説を信じる人に「動いているのは地球なのだ」ということを、手を変え品を変え伝えても理解を得ることが困難であるように、言い方を工夫したり何度も繰り返し説明しても、「伝わらない」は解決しません。

人は、何をどう聞き逃し、都合よく解釈し、誤解し、忘れるのか。これを知ることが、いいコミュニケーションの出発点です。ぜひ本書で賢い伝え方を身につけていってください。

四六判 / 304頁 /  
定価1,870円(税込)



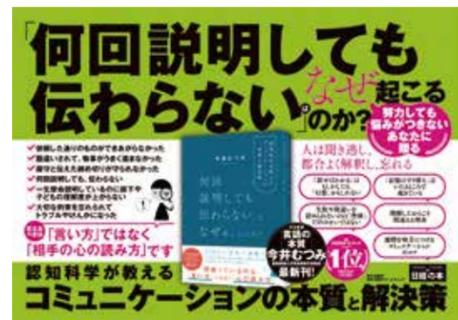
9784296000951

Report

表面的な言い方ではなく、コミュニケーションの本質を解説

言葉を尽くしているのに、なぜうまく伝わらないの？ 日頃から多くの人を経験していることだろう。本書では「話したはずなのに伝わっていない」というときに、いったい何が起きているのかを認知科学の観点から読み解き、その上で賢い伝え方を提案する。話し方や伝え方をテーマとした本は多数あるものの、それらを参考にしても、悩みを解消することはなかなか難しい。私たちはつい、「伝わって当たり前」という態度を取りがちだが、実は、他人に対して誤解なく正確に伝えることはすごいこと。「コミュニケーションは丁寧に取らなければいけない」ということ

を思い出させてくれる点で、多くのコミュニケーションの書籍とは一線を画すといえる。読者層としてはビジネスパーソンが中心となろうが、子どもたちに教科の内容をしっかりと伝えたい先生方にも参考になりそうだ。著者の今井むつみ氏は『言語の本質』(中公新書)で新書大賞2024を受賞。本書は受賞後の最新刊で、各種メディアで注目度が高まっている。初刷1万部で発刊し、予想を超える初動でその後も勢いを落とさず、現在6刷5万5000部を数える。さらに、同社では今後も日本経済新聞



JR 東日本ドア横ポスター

朝刊や、JR東日本ドア横ポスター広告(6月30日まで)などで売り伸ばしを計画しているという。

『LGBTのコモン・センス——  
自分らしく生きられる世界へ』(第三文明社)



**Message**  
誰もが自分らしく生きられるためのヒントがここに

〈タレント・はるな愛さん推薦〉「『みんな違ってみんないい。でも、みんな一緒がもっといい』まさにこの言葉がハマる素晴らしい一冊です。」

ジェンダー・セクシュアリティと法制度の関わりを研究する著者が、LGBT当事者の声を手がかりに、多様な性に関する常識の編み直しを試みる。

いかなる性を生きる人も「個人として尊重」され、安心して暮らしていくために、この社会に必要とされているのは何かを考察する一書。

【電子版あり】

四六判/184頁/定価1870円



9784476034257

『皮膚ガスのはなし  
—体臭は心と体のメッセージ—』(朝倉書店)



**Message**  
体臭の原因「皮膚ガス」についてをわかりやすく!

昨今TVなどでも話題になっている、体臭の原因となる「皮膚ガス」についてをまとめた1冊です!

基礎知識から、加齢臭や汗臭などよく知られる体臭のタイプと原因物質・対策といった実践的な知識まで、論文等も引用しながら、信頼できる情報をわかりやすく解説しています。(営業宣伝部)

A5判/136頁/定価2750円



9784254103052

デジタルチラシ配信サービス **BookLink PRO**

ウェッジ

【開発品】見たら幸せになれる?  
「ドクターイエロー」の御朱印帳が登場!

「ドクターイエロー」は、東京から博多までを走行し、電気設備や軌道設備などの状態を計測している、言わば「新幹線のお医者さん」。運行頻度は約10日に1度であるため、「見たら幸せになれる」とも言われています。

大判サイズ(横12cm×縦18cm)の御朱印帳の表紙には、2024年1月にリニア・鉄道館で行われた「ドクターイエロー神社」や、富士山の前を走る「ドクターイエロー」といった、縁起の良いイラストを配しました。

そして中の奉書紙には「ドクターイエロー」全7両の秘蔵の図面を掲載。御朱印帳を広げれば、横長の図面を一望できます。

裏は白地なので、通常の御朱印帳としてもご使用頂けます。

また「ドクターイエロー」のポストカードサイズの写真1枚(ランダム3種)も同封。「ドクターイエロー」づくしの一冊です。  
※本書には御朱印は印刷されておりません。

『922形・923形ドクターイエロー御朱印帳』

商品属性：新刊(注文締切日：2024-08-30)  
商品形態：文具・雑貨、その他  
ジャンル：趣味実用、その他  
ISBN：984863102866

メディアサイトでも公開中



U-NEXT

Aマッソ加納さん・シシガシラ脇田さんの  
新帯で重版しました!

3刷にてAマッソ加納さん、シシガシラ脇田さんの推薦帯に模様替えます!

1作品1テーマ、税込990円、新書サイズの中編レーベル1月刊が絶好調です。

—おすすめの3作—

- 「め生える」  
世界中の人がはげになることで、「美醜」のカースト・価値観が揺れる
- 「コンビニエンス・ラブ」  
アイドルの恋が暴く、推し活の本音と建前
- 「うどん陣営の受難」  
「会社」という小さな社会で繰り広げられる投票の「重さ」

『め生える』高瀬隼子著

商品属性：お知らせ  
商品形態：単行本、新書  
ジャンル：文芸  
重版情報：重版  
著者名：高瀬隼子  
ISBN：9784911106112

メディアサイトでも公開中



書店振興  
プロジェクト政府「骨太の方針2024」に書店活性化、盛り込まれる見通しに  
経済産業省 第2回「車座ヒアリング」を開催

経済産業省は6月12日、東京・千代田区の日本出版販売株式会社7階「オチャノバ」で齋藤健経産大臣と書店関係者などが参加する2回目の車座ヒアリングを開催した。作家で書店経営者の今村翔吾氏、上川陽子外務大臣、盛山正仁文部科学大臣などが参加。この中で齋藤大臣は近くまとめられる政府の「骨太の方針」に、書店と図書館との連携などによる文字、活字文化の振興と、書店の活性化が盛り込まれる見通しであることを報告。ヒアリングにはこのほか、株式会社ブックセラーズ&カンパニーの宮城剛高社長、敦賀市まちづくり観光部・柴田智之補佐、「ちえなみき」・笹本早夕里店長が参加した。



左から司会者、宮城社長、上川外相、今村氏、齋藤経産相、笹本店長、盛山文科相、柴田補佐(写真:代表撮影)

## 齋藤大臣「書店の減少を食い止めたい」

齋藤大臣は「1回目を開催したところ、メディアや一般の方から大変な反響をいただき、書店が少なくなっていくことに、多くの皆さんが危機感を感じていることを改めて実感する機会となった。多くの皆さんの力をいただきながら、少しでも書店の減少を食い止めていきたい」とあいさつ。

続いて上川大臣が海外出張の際に現地書店を訪問していると、「書店は、各国の歴史や文化、人々の関心が凝縮した空間で、その国への理解を深める上で大変重要な文化の拠点」と指摘。海外書店での日本書の扱いにも触れ、「その国において日本への関心がどのくらいあるのかを知る機会にもなる。そして、日本の古書店街や書店が日本文化の発信拠点であるとともに、国際的な文化交流拠点となりうる場所であるべきだ」と述べた。

盛山大臣は「書店は予期していなかった未知の本との偶然の出会いを提供する。それによって新たな興味、関心を喚起させるという点で知の拠点と言える。それはリアルな書店に足を運ぶことによって見つけれられると思う。読書活動

の担い手である地域の書店や図書館などが手を携えて、読書人口の増加や地域の読書環境醸成に取り組むことが重要だ」と述べた。



齋藤経産相(写真:代表撮影)

## 今村翔吾氏「国の支援はあくまで後押し」

発表として、はじめに今村氏が発言。書店がなくなることで困るのが高齢者とされていることに対して、「書店を出した時に気づいたが、最近の高齢者はスマホで本を買う。困ってるのはクレジットカードを持たない若者。若者こそ、駅に書店が戻ってきた時に1番喜んでくれた。町の書店は若者のためにあるべきだと思う」と指摘。

また、神田神保町に自らオープンしたシェア型書店「ほんまる」を紹介。出展者の30%以上が企業の製品紹介やブランディングに利用しており、行政からの引き合いもあることを報告。「ただ本を買うだけでなく、地域とつながる、地方と都市部をつなげる、そういう役割を持っているのではないかと考えている」と話した。

さらに、SNSで拡散された本がネット書店で購入される

ことに対して、「ネットで衝動買いをした時に、お金が町の書店に分配されるようなECサイトの開発もしている」と明かした。

最後に、出版界を変えていくためには各企業の新たな取り組みとともに、「業界全体が力を結集して歩み寄ることが必要」と述べ、「今回、経産省が動いてくれるのは本当にありがたいこと。しかし、それはあくまで後押しと捉えて、変えていかなければならないのは我々業界の中の人間だということを肝に銘じなければならない」と強調。

「次世代のために書店を残すという、青臭いかもしれないが、この1点で出版界は繋がって変えていければ、減んでも仕方ないのではないかと。私は必ず今年が書店復活の元年になると信じている」と結んだ。

## 宮城社長、2年で直取引60%に

紀伊國屋書店とカルチュア・コンビニエンス・クラブ、日本出版販売の合弁会社であるブックセラーズ&カンパニーの宮城社長は、海外で書籍販売が伸びている国は多くあり、アメリカで独立系書店が増えていることなどを紹介。そのうえで、日本との違いについて、海外では出版社と書店の直接取引が多く、その結果、書店の粗利益率が高いことを、紀伊國屋書店海外店舗の状況から説明した。

同社は出版社との直接取引によって意思を持った仕入を行い、返品を減らすことで書店粗利30%を目指すというビジョンを示し、今年4月時点で5%の直接取引比率を、10月に20%、2026年4月に60%に拡大し、粗利30%を確保するス

ケジュールを示した。

また、今年3月から4月の期間で直接取引出版社5社の実績を、仕入額前年比1.2%増、売上高同14.4%増、返品額同5.6%減、返品率同2.3ポイント減などと報告した。

敦賀市が北陸新幹線開通に合わせて駅前に開設した知育・啓発施設「ちえなみき」については、柴田補佐と笹本店長が、開設の経緯、方法、考え方、施設の内容などを説明。丸善雄松堂と編集工学研究所の指定管理で運営する公設民営書店「TSURUGA BOOKS & COMMONS」は、初期在庫を市が負担し、古書や洋書も展示。売上率は44%に達していると報告した。

## 狛江市で書店が再出店

意見交換で上川大臣は、来日者への文化発信拠点としての書店の役割とともに、翻訳の問題を指摘し、「外務省では50言語ぐらいに翻訳をしている。また翻訳者も育てていかないとクオリティーのある物はできない。その部分についてはパブリックの重要性を感じている。外務大臣として頑張っていきたい」と発言。

盛山大臣は、文科省として、文字、活字振興のため、書店と図書館の連携に向けて書店・図書館関係者による対話の場を設けて連携促進方策を取りまとめたことなど施策を説明。「今後、新たな枠組みとして、書店や図書館、出版社等の関係団体による協議会を設けるので、今日のご意見

を参考に取り組んでいきたい」と述べた。

最後に齋藤大臣が目すべき事例として、東京都狛江市で昨年閉店した啓文堂書店(京王書籍販売株式会社)が、市民有志グループによる「エキナカ本展」などの取り組みに応え、6月27日に再度出店することを紹介。

さらに、経済財政諮問会議で取りまとめている「骨太の方針」に、書店と図書館等との連携促進を含む文字、活字文化の振興と、書店の活性化を図ることが盛り込まれることを明らかにし、「狛江市の例のように、市民の力で書店が次々と再出店できればいいという思いを込めて紹介させていただいた」と述べた。



## 大垣書店麻布台ヒルズ店で絵本フェア 書店店頭で絵本専門士が選書をサポート

西村書店は5月18日から同30日まで、東京・港区の大垣書店麻布台ヒルズ店で絵本フェアを開催した。期間中、同店の入口の売り場スペースで、5月15日刊行の新刊『もし、世界にわたしがいなかったら』など同社の絵本を数多く展開。フェア開催の週末には、「絵本専門士アビエント」が常駐し、来店客の選書をサポートする新たな試みも実施した。

絵本フェアの期間中は、大垣書店麻布台ヒルズ店の広いスペースをフル活用し、「NISHIMURA EHON MUSEUM-もし、世界にわたしがいなかったら」刊行記念フェア、絵本原画展「絵本の庭へようこそ パーナデット・ワッツ原画展」を常時展開した。

また、週末には絵本作家・ほんまちひろさんの「『ねこひげ びびん』(西村書店)おえかきワークショップ」や、『もし、世界にわたしがいなかったら』(文=ビクター・サントス、絵=アンナ・フォルラティ、訳=金原瑞人)の刊行記念イベントとして、金原さんのトークショー&サイン会などのイベントも開催した。

同店の入口付近に設けられたブックフェアのスペースには、大人や子ども連れが訪れ、西村書店の絵本を興味深そうに手に取る姿が多く見られた。また、絵本専門士も積極的に声をかけ、絵本の魅力などを伝えながら、選書をサポートしていた。

今回の試みについて、西村書店の西村安曇取締役

役は「絵本専門士が書店店頭でお客さまをサポートするのは、これまであまりなかったことではないか。今回のように、絵本専門士のような資格をもった人たちが、もっと活躍できる機会が増えてほしい」との思いを語った。

世界20言語で刊行されている言葉についての哲学絵本『もし、世界にわたしがいなかったら』のイベントでは、文を書いたビクター・サントスさんからのビデオメッセージも流された。

サントスさんは「この本の魅力を感じて日本で出版した西村書店に感謝する」としたうえで、「どんな言語でも、その地域の文化と切り離すことができない。そして、その言語が消滅するとその文化も一緒になくなってしまふ。この絵本を通じて、私たちが話す言語の大切さ、私たちの母国語について皆さんも考えてほしい」と呼びかけた。



入口付近のブックフェアスペースには多くの人が訪れ、西村書店の絵本を手に取っていた



翻訳家・金原さんによるトークショー&サイン会

書店員の皆さまへ

書店員が投票する!

# 第2回「デジタル販促チラシコンテスト」

好評につき、第2回「デジタル販促チラシコンテスト」の7月開催が決定!  
公開されているチラシから、1名3つまでコメントを付けて投票をお願いいたします。  
投票にご協力いただいたユーザーから抽選で10名に図書カードNEXT3000円分を  
プレゼント。応募受付は7月1日~31日まで!

7月1日  
受付開始



図書カード3000円を10名にプレゼント!  
キャンペーンの詳細は、QRコードのウェブページで!!  
第1回の投票結果はメディアサイトで公開しています



デジタルチラシ配信サービス

# BookLink PRO

書店の  
登録・利用は  
無料

「BookLink PRO」は重版やパブリシティなど、出版社の販促情報を一覧化したプラットフォームです。  
タグ付けされた付帯情報をもとに、書店と出版社の業務効率化・最適化を実現します。

### 登録手順

- ① 店舗責任者による「親アカウント」登録
- ② マイページ画面の「メンバーの管理」で「メンバーの追加」
- ③ 「子アカウント」の認証

お申込みはQRコード  
またはサイトから!



BookLink PRO

検索

URL⇒<https://book-link.jp/service/>



- ① 保存リスト  
気になるチラシを保存できる
- ② 共有リスト  
店舗スタッフでチラシを回覧できる機能
- ③ フォローリスト  
検索条件をお気に入り保存できる
- ④ タグ  
出版社が登録した商品情報や注文締切日などで絞り込める
- ⑤ パブリシティ  
新聞、テレビ、ラジオ、SNSなどのパブ情報が検索可能
- ⑥ 発注サイトへのボタン  
出版社が指定した注文サイトへのリンク機能